

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2024-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 外山, 義典 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009596 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



さけます情報

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

そとやま よしのり
外山 義典 (水産資源研究所さけます部門 資源増殖部 事業課)

2020年の北太平洋

漁獲数

2021年に公表されたNPAFC統計データによると、2020年1～12月の北太平洋におけるさけます類の漁獲数は3億2,252万尾で、前年5億5,855万尾の58%でした(図1A)。

魚種別に見ると、カラフトマスが2億265万尾で最も多く、全体の63%(前年比50%)を占めています。次いでベニザケが5,967万尾(構成比19%,前年比80%)、サケが5,341万尾(構成比17%,前年比73%)と続き、これら3魚種で全体の約98%を占めています(図1A)。地域別では、ロシアが1億7,867万尾(前年比54%)と最も多く、次いでアラスカが1億1,891万尾(前年比57%)と両地域で全体の92%以上を占めています。以下、日本2,158万尾(前年比116%)、カナダ246万尾

(前年比257%)、アラスカ以外の米国(ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州)84.3万尾(前年比59%)、韓国5.5万尾(前年比109%)と続いています。カナダと日本、韓国の漁獲数は増加しましたが、ロシアとアメリカは前年に比べて大きく減少し、近年の減少傾向が目立ちます(図1B)。

人工ふ化放流数

2020年1～12月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は50億9884万尾で、前年55億3758万尾の92%でした(図1C)。

魚種別ではサケが32億9,855万尾で全体の65%を占め、これに次ぐカラフトマス12億7,711万尾と合わせると全体の90%近くを占めます(図1C)。地域別ではアラスカ17億2,610万尾、日本が15億9,281万尾、ロシア12億8,735万尾、カナダ2

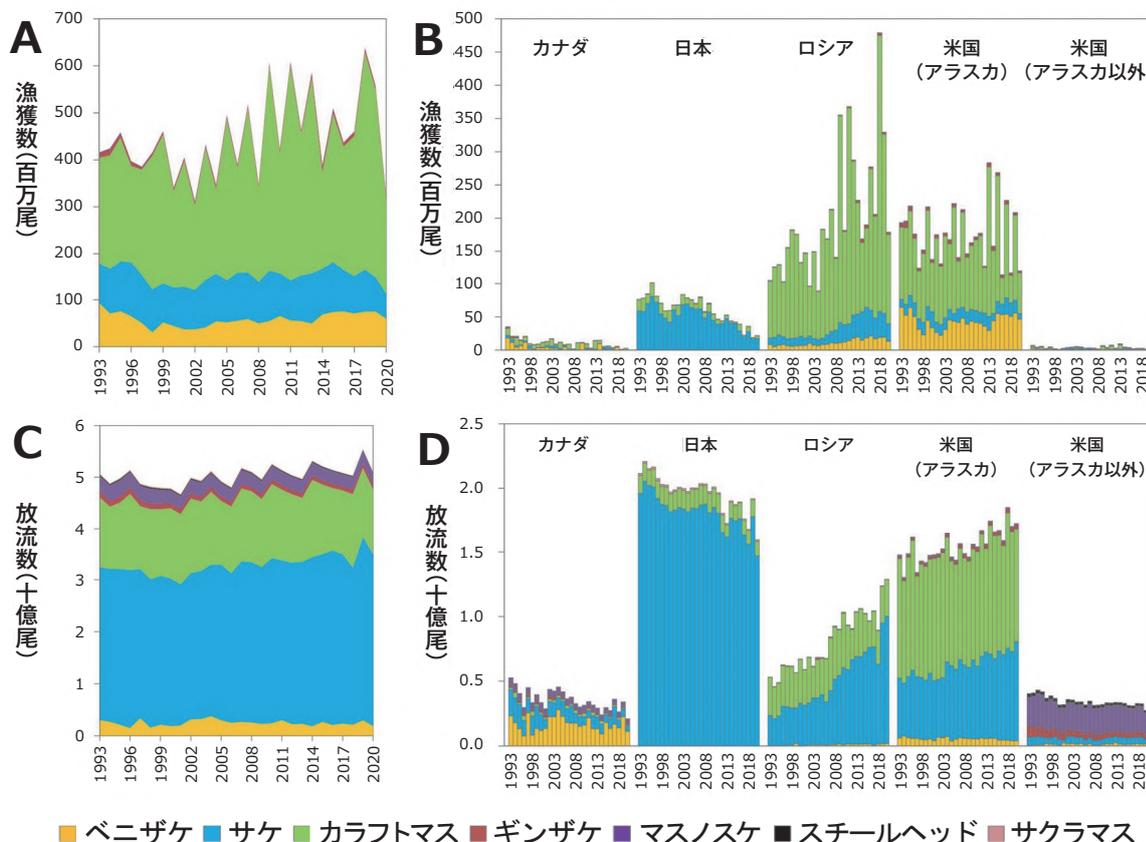


図1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A), 地域別魚種別の漁獲数 (B), 魚種別人工ふ化放流数 (C) 及び地域別魚種別の人工ふ化放流数 (D).

A 及び B は「NPAFC Pacific salmonid catch statistics (updated 8 September 2021)」, C 及び D は「NPAFC Pacific salmonid hatchery release statistics (updated 6 August 2021)」より作成 (参照 2021-9-28). アラスカ以外の米国はワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計. 韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数とも僅かなため図中では省略.

億 867 万尾, アラスカ以外の米国 2 億 7,584 万尾, 韓国 806 万尾となっています (図 1D)。

2021 年漁期の日本

サケ

2021 年漁期 (2021 年 8 月～2022 年 2 月) の来遊数 (沿岸漁獲と河川捕獲の合計) は 1 月 20 日現在 1,927 万尾, 前年同期比で 95%と前年よりも減少し, 引き続き低い水準となっています (図 2)。このうち北海道では 1,863 万尾 (前年同期比 102%), 本州太平洋側では 34 万尾 (前年同期比 28%), 本州日本海側では 30 万尾 (前年同期比 45%) と, 本州地区において前年を大きく下回っています。採卵数は 1 月 20 日現在で 11 億 6,554 万粒と, 前年同期の 75%となっています。このうち北海道は計画数の 83%, 本州太平洋は計画数の 15%, 本州日本海は計画数の 73%と, いずれも計画数を下回っています。全国の放流数は計画 (16 億 3,987 万尾) を大きく下回ると見込まれます。

カラフトマス

カラフトマスは 2 年で回帰するため, 偶数年級と奇数年級で異なる繁殖集団を形成していると考えられます。主産地の北海道における来遊数の動向を見ると, 奇数年級は 2007 年以降減少傾向を示しており, 2021 年漁期 (2021 年 7 月～11 月) は 84 万尾 (前年比 18%) と, 1983 年以降で最低の来遊数となりました (図 3)。偶数年級の来遊数は 2016 年に増加しましたが, 2018 年から減少傾向を示し, 2020 年は 474 万尾の回帰となりました。採卵数は 1 億 1,432 万粒で計画数の 66%となっており, 放流数も計画 (1 億 3,840 万尾) を下回ると見込まれます。

サクラマス

2021 年漁期の北海道における河川捕獲数は 12,758 尾 (前年比 82%) となり, 2000 年以降の平均の約 120%となりました。地域別には, オホーツク海区で前年比 53%, 日本海区で 104%, 根室海区で 84%, えりも以西海区で 185%と, 日本海区は前年並み, えりも以西海区では前年を大きく上回りましたが, オホーツク海区と根室海区では前年を下回りました。採卵数は 763.8 万粒で, 計画数の 120%となりました。なお, 2021 年漁期の本州河川捕獲数については現在確認中です (図 4)。

ベニザケ

2021 年漁期の北海道 3 河川 (安平川・静内川・釧路川) における河川捕獲数は 637 尾で前年比 49.3%となりました。

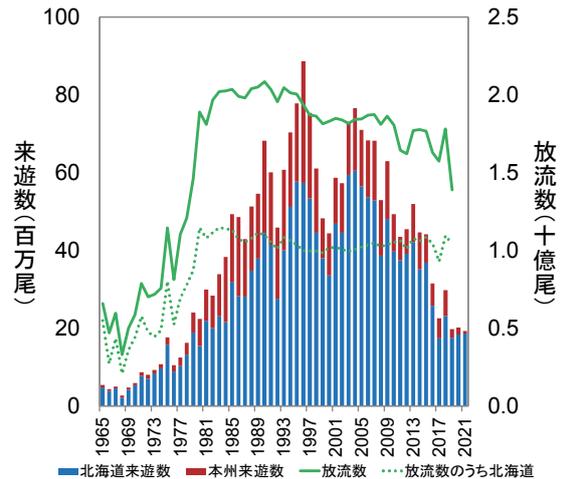


図 2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数 (2021 年漁期来遊数は 1 月 20 日現在)。

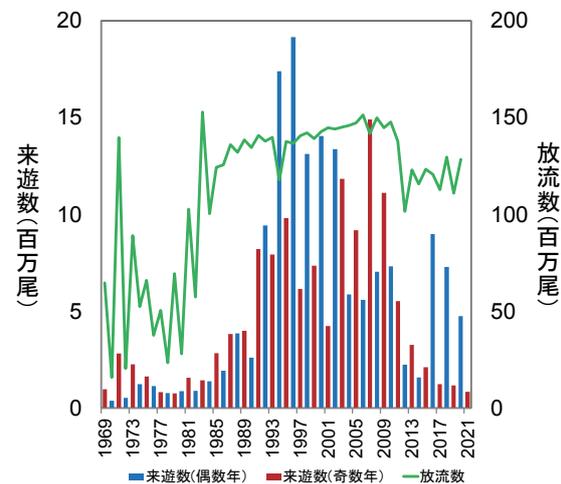


図 3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

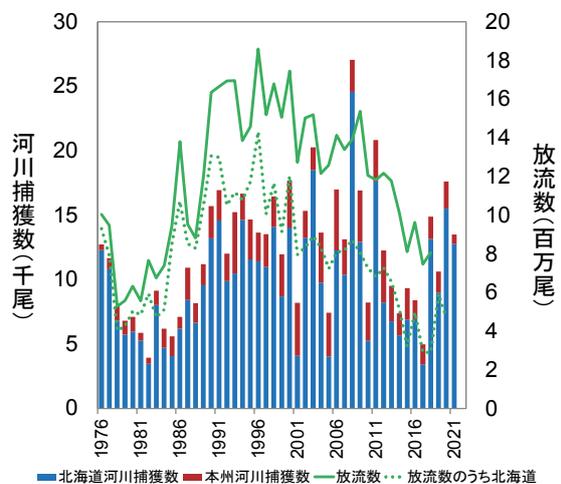


図 4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数 (2021 年漁期の本州河川捕獲数は確認中)。